

きゃら  
能管と琵琶のデュオ「伽羅」



能管奏者の野中久美子と筑前琵琶奏者の川村旭芳によって2002年に結成されたデュオ。空気を切り裂いて進むような能管の音と、嫋々と響く琵琶の音が、時に交じり合い、時に拮抗し合いながら、独特の音世界を織り上げてゆく。

2005年開催の愛知万博「愛・地球博」、2013年出雲大社式年遷宮奉祝行事をはじめ、各種イベント・行事に出演。神社・仏閣・キリスト教会から町家・銭湯まで、人の集まる様々な場での演奏活動を展開している。

(上の写真:伽羅のクリスマス2018より)



**野中 久美子(のなか くみこ) 能管**

1986年、国際基督教大学(ICU)教養学部卒業。能管を松田弘之(能楽笛方森田流)に師事。独奏のほか、世界の様々な楽器や舞、朗読との共演も行い、能管のもつ身体性や情動性、力感などの楽器の特性を生かした新しい作品を創作している。海外でも現地アーティストと創作共演を度々行っている。『風迢舎』主宰。2015年のミラノ万博では日本館で行った風迢舎ライブが好評を博した。

◇公式サイト <http://fuu-chou-sha.jp> ◇公式Facebook「野中久美子 風迢舎」



**川村 旭芳(かわむら きよくほう) 筑前琵琶**

八歳の頃、母の勧めで筑前琵琶日本旭会 総師範 故二代柴田旭堂師に入門。古典の琵琶曲を継承しながら新作の創作にも取り組み、阪神・淡路大震災の追悼曲はじめ、母 川村素子の作詞による作品も発表。

箏・尺八・胡弓などの演奏家四人で結成された和楽器ユニット「おとぎ」代表。

筑前琵琶日本旭会 師範。日本詩吟学院 兵庫中央岳風会 会員。

◇公式サイト <http://www.kyokuho-biwagaku.jp/>